

農業資材審議会飼料分科会（第34回）  
議事概要

1 日 時

平成25年6月10日（月）13：30～15：00

2 場 所

農林水産省 本館4階 第2特別会議室

3 出席委員（敬称略）

有田芳子、植松洋子、鬼武一夫、梶雄次、金子豊二、北嶋聡、佐藤恭子、高溝正丹生谷博、松井徹（座長）、宮崎茂

4 会議の概要

（1）農業資材審議会飼料分科会の運営等（資料4）

飼料分科会長の指名により、飼料安全部会、遺伝子組換え飼料部会及び飼料栄養部会の部会長及び各部会に属する委員を決定。また、各部会長の指名により、部会長代理を決定。

「飼料安全部会において基準又は規格を改正する場合の議決」及び「飼料栄養部会の議決」は、これまでと同様に飼料分科会の議決とすることを了承。

飼料安全部会及び遺伝子組換え飼料部会については、開発企業等の知的財産情報を扱うことから、非公開とすることを了承。

（2）飼料中の農薬の規格の改正（資料5）

除草剤ペンディメタリンの成分規格（飼料中の残留基準）の改正について、飼料安全部会での審議結果が報告され、国内及び海外における飼料の作物残留試験等の結果から、成分規格の改正を行うことは適当である旨答申。

（3）その他

① 米国における未承認遺伝子組換え小麦の検出（資料6）

米国のオレゴン州の一農家で自生が確認された未承認の遺伝子組換え小麦については、米国食品医薬品局（FDA）によって食品及び飼料としての安全性が確認されていること、現時点で当該小麦が流通品に入ったとの情報はなく、また、仮に混入していたとしても、その混入率は高くないと考えられることを報告。

② 抗菌性飼料添加物による薬剤耐性菌のリスク評価（資料7）

食品安全委員会の評価が終了した4種類の抗菌性飼料添加物（モネンシナトリウム、ノシヘプタイド、センデュラマイシンナトリウム及びラサロシドナトリウム）については、「抗菌性飼料添加物のリスク管理措置策定指針」に基づき飼料安全法によるリスク管理措置と薬剤耐性菌の動向を把握するための調査を継続することを報告。委員からは国際的にも優先度の高い案件であり、飼料添加物のみならず、動物用医薬品の薬剤感受性調査の結果を報告してほしいとの要望があった。